

小竹高等技術専門校

個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	10
施設所管課	財産活用課

令和2年7月

✿福岡県✿

小竹高等技術専門校 個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	6
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
第3章	個別施設の状態等	7
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	24
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対象施設	小竹高等技術専門校		
所管	総務部財産活用課		
整理番号	10	竣工年	平成5年
所在地	鞍手郡小竹町大字新多514-2		
敷地面積 (m ²)	43,308.29	建築面積 (m ²)	5,479.26
主構造	RC	延床面積 (m ²)	8,596.46
主要建築物	本館棟、実習棟A、実習棟B、実習棟C、講堂棟		

(2) 対象施設の活用状況

建物の名称	本館棟				
棟番・枝番	41	-	1	竣工年	平成5年
建築面積 (m ²)	1,051.63		延床面積 (m ²)	3,029.24	
構造・階数	RC造・地上3階、塔屋1階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(m ²)	主な用途(室名他)			
PH	26.40	屋上昇降階段			
3F	966.21	教室、共用IT教室、視聴覚室			
2F	985.00	教室、製図室、実習室			
1F	1,051.63	事務室、校長室、会議室、保健室、更衣室、相談室			

建物の名称	実習棟A				
棟番・枝番	41	-	2	竣工年	平成5年
建築面積 (m ²)	971.59		延床面積 (m ²)	1,828.56	
構造・階数	RC造・地上2階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(m ²)	主な用途(室名他)			
2F	862.23	教室、実習室			
1F	966.33	実習場			

建物の名称	実習棟B				
棟番・枝番	41	—	3	竣工年	平成5年
建築面積 (㎡)	1,629.28		延床面積 (㎡)	1,761.90	
構造・階数	S造・地上2階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積 (㎡)	主な用途 (室名他)			
2F	132.62	更衣室			
1F	1,629.28	実習場			

建物の名称	実習棟C				
棟番・枝番	41	—	4	竣工年	平成5年
建築面積 (㎡)	1,247.65		延床面積 (㎡)	1,397.65	
構造・階数	S造・地上2階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積 (㎡)	主な用途 (室名他)			
2F	150.00	更衣室			
1F	1,247.65	実習場			

建物の名称	講堂棟				
棟番・枝番	41	—	5	竣工年	平成5年
建築面積 (㎡)	416.81		延床面積 (㎡)	416.81	
構造・階数	RC造・地上1階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積 (㎡)	主な用途 (室名他)			
1F	416.81	講堂			

小竹高等技術専門校は平成5年に竣工しました。当学校は、職業訓練校であり、現在の訓練科目は、プログラム設計科・自動車整備科・機械科・建築科・塗装科・介護サービス科の6科を設置しています。

当該施設は、災害対策基本法に基づく小竹町の指定避難所に指定されています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景（本館棟）



全景（実習棟A）



全景（実習棟B）



全景（実習棟C）



全景（講堂棟）



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築 27 年で目標使用耐用年数である 65 年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。

当該施設は、災害対策基本法に基づく小竹町の指定避難所に指定されているため、優先して改修等を行っていきます。

(2) 施設内での優先順位

本館棟、実習棟A及び講堂棟は、鉄筋コンクリート造りによる一般的な建物であり、本館棟は平成 25 年度に 2 階一部教室の空調改修工事を、実習棟Aは平成 12 年度に内部改装工事、平成 26 年度に一部空調機改修工事を行っています。

実習棟B及び実習棟Cは、鉄骨造りによる一般的な建物であり、平成 25 年度に雨漏りによる屋根の補修工事を行っています。

しかしながら、空調設備改修工事、屋根の補修工事ともに事後保全による部分的な工事であるため、いずれの建物についても、建築物としての機能を維持するための屋上防水や一部の電気・機械設備及び直接的被害につながる恐れのある外壁について抜本的な改修工事を優先的に行うこととします。

なお、改修に当たってはユニバーサルデザイン化を進めることとします。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

いずれの建物についても、屋上防水、外壁等の大きな改修を行っていないほか、施設設備の不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っていますが、予防保全による改修はできていない状態です。

(2) 建物全体の現存率

①本館棟

現存率算定表

施設名称	小竹高等技術専門学校		建物名称	本館棟			
所在地	鞍手郡小竹町大字新多514-2		棟番・枝番	40	- 1	築年数	24年
建築年	平成5年	建築面積	1,051.63 m ²	現存率	76.7	想定耐用年数	65年
構造・階数	RC 3	延面積	3,029.24 m ²				
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②	
構造	躯体	40	RC	24	100.0	40.00	
	小計						40.00
主要部仕上げ	屋根・防水	20	シート防水	24	53.3	10.66	
	外壁	20	塗装	24	60.0	12.00	
	小計						22.66
電気設備	受変電設備	10		24	70.0	7.00	
	小計						7.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		24	70.0	7.00	
	小計						7.00
合計						76.66	

※平成29年施設調査時のデータ

この結果、小竹高等技術専門学校本館棟の現存率は、「76.7」となります。

○建物各部位の現存率（本館棟）

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ¹	Is 値が 1.0 以上 若しくは新耐震基準
屋根	シート防水	53.3	防水層からの漏水 又はその痕跡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広範囲に少しずつの劣化がある ・ 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある ・ 部分修繕でも対応可能
			防水層の劣化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広範囲に少しずつの劣化がある ・ 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある ・ 部分修繕でも対応可能
			経年（新設若しくは改修後）	経年 20 年以上
外壁	塗装	60.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広範囲に少しずつの劣化がある ・ 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある ・ 部分修繕でも対応可能
			漏水の発生・痕跡の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広範囲に少しずつの劣化がある ・ 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある ・ 部分修繕でも対応可能
内壁	タイル貼りモルタルE P	60.0	劣化	仕上げ材等の劣化が多く認められるが、部材修繕で対応可能
天井	吸音板化粧石こうボード	80.0		
床	タイル貼りビニールシート張り	80.0		
建具	木製その他	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上

¹ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
受変電設備	あり	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	40.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	40.0	定期点検等の結果	重大な欠陥又は是正 箇所の指摘があり、 大規模修繕が必要
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
消火設備	—	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
エレベーター 設備	—	70.0	定期点検等の結果	使用上、管理上の問 題を指摘されたが、 機能上問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上

②実習棟A

現存率算定表

施設名称	小竹高等技術専門校		建物名称	実習棟A				
所在地	鞍手郡小竹町大字新多514-2		棟番・枝番	40	-	2	築年数	24年
建築年	平成5年	建築面積	971.59 m ²	現存率	76.0	想定耐用年数	65年	
構造・階数	RC 2	延面積	1,828.56 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	RC	24	100.0	40.00		
	小計						40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	シート防水	24	40.0	8.00		
	外壁	20	塗装	24	70.0	14.00		
	小計						22.00	
電気設備	受変電設備	10		24	70.0	7.00		
	小計						7.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		24	70.0	7.00		
	小計						7.00	
合計						76.00		

※平成29年施設調査時のデータ

この結果、小竹高等技術専門校実習棟Aの現存率は、「76.0」となります。

○建築物各部位の現存率（実習棟A）

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ²	Is 値が 1.0 以上 若しくは新耐震基準
屋根	シート防水	40.0	防水層からの漏水 又はその痕跡	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲に多くの劣化がある ・少数の部材にも多くの劣化部分がある ・大規模修繕が必要
			防水層の劣化	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲に多くの劣化がある ・少数の部材にも多くの劣化部分がある ・大規模修繕が必要
			経年（新設若しくは改修後）	経年 20 年以上
外壁	塗装	70.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲に少しずつの劣化がある ・多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある ・部分修繕でも対応可能
			漏水の発生・痕跡の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・部分的にひび割れや部材の劣化がある ・少数の部材に少しの劣化がある
内壁	タイル貼りモルタルE P	60.0	劣化	仕上げ材等の劣化が多く認められるが、部分修繕で対応可能
天井	化粧石こうボード	80.0		
床	タイル貼り、ビニール床タイル	80.0		
建具	その他	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上

² Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	40.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	40.0	定期点検等の結果	重大な欠陥又は是正 箇所の指摘があり、 大規模修繕が必要
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
消火設備	—	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

③実習棟B

現存率算定表

施設名称	小竹高等技術専門校		建物名称	実習棟B				
所在地	鞍手郡小竹町大字新多514-2		棟番・枝番	40	-	3	築年数	24年
建築年	平成5年	建築面積	1,629.28 m ²		現存率	78.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	S 2	延面積	1,761.90 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	S	24	100.0		40.00	
	小計							40.00
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	鋼板屋根	24	40.0		8.00	
	外壁	20	塗装	24	70.0		14.00	
	小計							22.00
電気設備	受変電設備	10		24	90.0		9.00	
	小計							9.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		24	70.0		7.00	
	小計							7.00
合計							78.00	

※平成29年施設調査時のデータ

この結果、小竹高等技術専門校実習棟Bの現存率は、「78.0」となります。

○建築物各部位の現存率（実習棟B）

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	S	100.0	耐震診断による Is 値 ³	Is 値が 1.0 以上 若しくは新耐震基準
屋根	鋼板屋根	40.0	防水層からの漏水 又はその痕跡	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲に多くの劣化がある ・少数の部材にも多くの劣化部分がある ・大規模修繕が必要
			防水層の劣化	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲に多くの劣化がある ・少数の部材にも多くの劣化部分がある ・大規模修繕が必要
			経年（新設若しくは改修後）	経年 20 年以上
外壁	塗装	70.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲に少しずつの劣化がある ・多数の部材に少しずつ劣化部分がある ・部分修繕でも対応可能
			漏水の発生・痕跡の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・部分的にひび割れや部材の劣化がある ・少数の部材に少しの劣化がある
内壁	仕上げあり	60.0	劣化	仕上げ材等の劣化が多く認められるが、部分修繕で対応可能
天井	仕上げあり化粧石こうボード	80.0		
床	ビニール床タイル張りモルタル塗り	80.0		
建具	アルミ	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上

³ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	40.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	40.0	定期点検等の結果	重大な欠陥又は是正 箇所の指摘があり、 大規模修繕が必要
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
消火設備	—	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

④実習棟C

現存率算定表

施設名称	小竹高等技術専門校		建物名称	実習棟C				
所在地	鞍手郡小竹町大字新多514-2		棟番・枝番	40	-	4	築年数	24年
建築年	平成5年	建築面積	1,247.65 m ²	現存率	76.0	想定耐用年数	65年	
構造・階数	S 2	延面積	1,397.65 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	S	24	100.0	40.00		
	小計						40.00	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	鋼板屋根	24	40.0	8.00		
	外壁	20	塗装	24	70.0	14.00		
	小計						22.00	
電気設備	受変電設備	10		24	70.0	7.00		
	小計						7.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		24	70.0	7.00		
	小計						7.00	
合計						76.00		

※平成29年施設調査時のデータ

この結果、小竹高等技術専門校実習棟Cの現存率は、「76.0」となります。

○建築物各部位の現存率（実習棟C）

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	S	100.0	耐震診断による Is 値 ⁴	Is 値が 1.0 以上 若しくは新耐震基準
屋根	鋼板屋根	40.0	防水層からの漏水 又はその痕跡	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲に多くの劣化がある ・少数の部材にも多くの劣化部分がある ・大規模修繕が必要
			防水層の劣化	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲に多くの劣化がある ・少数の部材にも多くの劣化部分がある ・大規模修繕が必要
			経年（新設若しくは改修後）	経年 20 年以上
外壁	塗装	70.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲に少しずつの劣化がある ・多数の部材に各々少しずつの劣化部分がある ・部分修繕でも対応可能
			漏水の発生・痕跡の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・部分的にひび割れや部材の劣化がある ・少数の部材に少しの劣化がある
内壁	仕上げあり	60.0	劣化	仕上げ材等の劣化が多く認められるが、部分修繕で対応可能
天井	仕上げあり化粧石こうボード	80.0		
床	ビニール床タイル張りモルタル塗り	80.0		
建具	その他	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上

⁴ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	40.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	40.0	定期点検等の結果	重大な欠陥又は是正 箇所の指摘があり、 大規模修繕が必要
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
消火設備	—	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

⑤講堂棟

現存率算定表

施設名称	小竹高等技術専門校		建物名称	講堂棟				
所在地	鞍手郡小竹町大字新多514-2		棟番・枝番	40	-	5	築年数	24年
建築年	平成5年	建築面積	416.81 m ²	現存率	81.3	想定耐用年数	65年	
構造・階数	RC 1	延面積	416.81 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	RC	24	100.0	40.00		
	小計						40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	シート防水	24	66.7	13.34		
	外壁	20	塗装	24	70.0	14.00		
	小計						27.34	
電気設備	受変電設備	10		24	70.0	7.00		
	小計						7.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		24	70.0	7.00		
	小計						7.00	
合計						81.34		

※平成29年施設調査時のデータ

この結果、小竹高等技術専門校講堂棟の現存率は、「81.3」となります。

○建築物各部位の現存率（講堂棟）

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ⁵	Is 値が 1.0 以上 若しくは新耐震基準
屋根	シート防水	66.7	防水層からの漏水 又はその痕跡	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			防水層の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			経年（新設若しくは改 修後）	経年 20 年以上
外壁	塗装	70.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・広範囲に少しづつ の劣化がある ・多数の部材に各々 少しづつ劣化部分 がある ・部分修繕でも対応 可能
			漏水の発生・痕跡の有 無	・部分的にひび割れ や部材の劣化があ る ・少数の部材に少し の劣化がある
内壁	その他	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
天井	吸音板	80.0		
床	モルタル塗り	80.0		
建具	アルミ	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
電灯・電話設 備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上

⁵ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	40.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	40.0	定期点検等の結果	重大な欠陥又は是正 箇所の指摘があり、 大規模修繕が必要
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
消火設備	—	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

①本館棟

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1993	27	新	-	-	-	-	65 年

②実習棟A

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1993	27	新	-	-	-	-	65 年

③実習棟B

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1993	27	新	-	-	-	-	65 年

④実習棟C

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1993	27	新	-	-	-	-	65 年

⑤講堂棟

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1993	27	新	-	-	-	-	65年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いいため、小竹高等技術専門校の本館棟、実習棟A、実習棟B、実習棟C及び講堂棟の目標耐用年数を原則どおり65年（残年数を38年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築27年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は38年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間の改修費用は、本館棟が約1億9千万円、実習棟Aが約9千万円、実習棟Bが約9千万円、実習棟Cが約7千万円、講堂棟が約3千万円となっています。

(2) 対策の平準化について

優先順位の考え方に沿った上で費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

本館棟、実習棟A、実習棟B、実習棟C及び講堂棟について、まずは、空調設備の改修を行います。次に、本館棟のエレベーターの改修、さらに、各棟の屋上防水と外壁の改修、給排水設備等の改修を行います。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、取り組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

①本館棟					(百万円)	計
区分	項目	実施時期				
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度		
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	22	22	
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	42	42	
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	4	97	22	123	
その他		0	0	0	0	
	計	4	97	86	187	

②実習棟A					(百万円)	計
区分	項目	実施時期				
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度		
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	14	14	
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	26	26	
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	2	32	14	48	
その他		0	0	0	0	
計		2	32	54	88	

③実習棟B					(百万円)	計
区分	項目	実施時期				
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度		
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	13	13	
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	25	25	
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	2	30	13	45	
その他		0	0	0	0	
計		2	30	51	83	

④実習棟C					(百万円)	計
区分	項目	実施時期				
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度		
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	11	11	
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	20	20	
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	2	24	11	37	
その他		0	0	0	0	
計		2	24	42	68	

⑤講堂棟					(百万円)	計
区分	項目	実施時期				
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度		
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	3	3	
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	6	6	
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	1	8	3	12	
その他		0	0	0	0	
計		1	8	12	21	

※上記は実際の予算や事業費等とは異なります。